



# 体外衝撃波治療について

体外衝撃波治療（SW；Shock Wave）は、物体が高速で動くときに発生するエネルギー波（衝撃波）を使って組織（筋・筋膜・腱・腱鞘・骨膜等々）の修復をうながす新しい治療です。当院では2019年よりSW治療を導入しています。



## SWの治療効果

SWは、**患部に増えた痛覚神経をブロックして痛みをとる即時的な効果**と**組織の修復をうながす長期的な効果**があり、**反復することで組織の修復がすすみ、長期間にわたり痛みが軽減することが期待できます。**

## SWの対象疾患

SWの対象疾患は痛みを伴う軟部組織全般の障害です。

### 1 腱・腱膜の痛み

膝蓋靭帯炎、足底腱膜炎、アキレス腱症、肩関節周囲炎（五十肩）

### 2 腱付着部の痛み

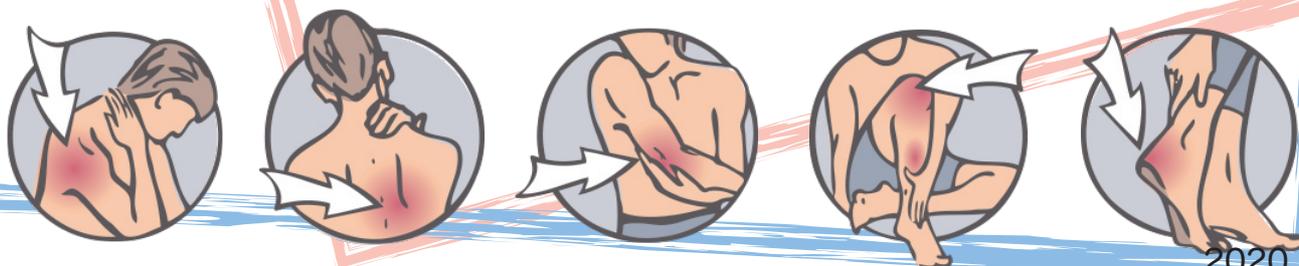
外側上顆炎（テニス肘）、内側上顆炎（ゴルフ肘）、踵骨棘、アキレス腱付着炎、ジャンパー膝

### 3 骨・骨膜の痛み

シンスプリント、疲労性骨膜炎

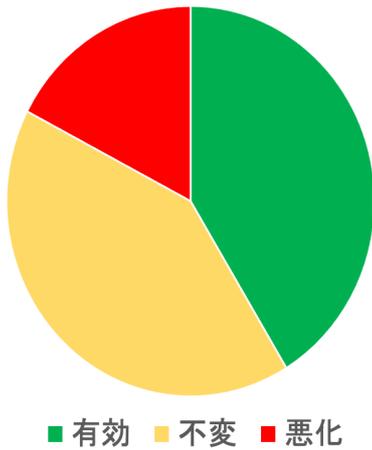
導入後1年間経過した調査では、SWが特に有効であったのは、**足底腱膜炎**、**外側上顆炎**、**アキレス腱付着部炎**です。また、SW自体の効果は大きくはないものの、**肩関節周囲炎**もリハビリや注射の併用で良好な治療結果を認めました。

SWの成績の詳細はこちら

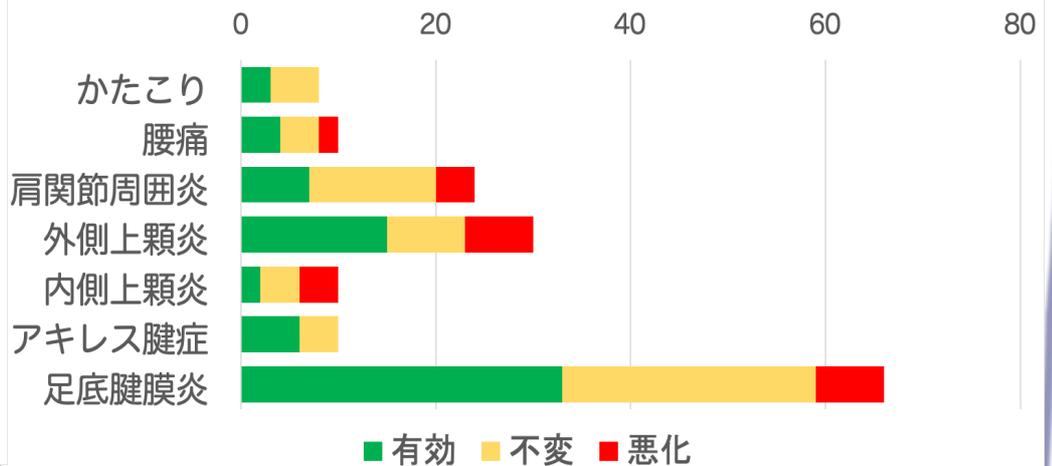


## SW治療成績

痛みの改善

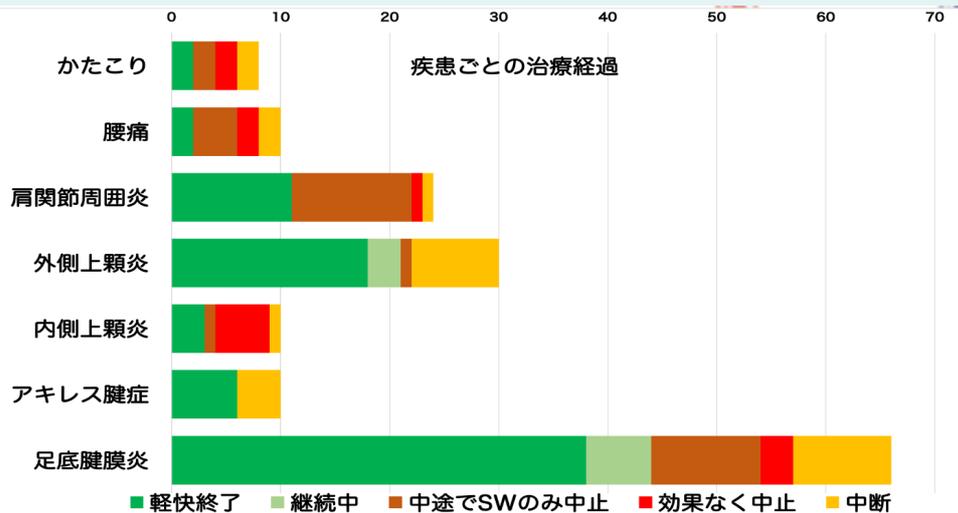
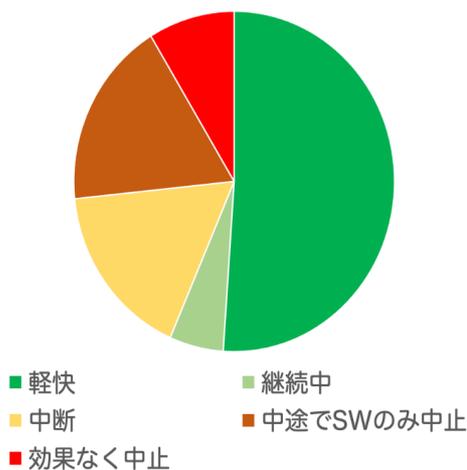


疾患別の痛みの改善



SW治療後に痛みが60%以上減った方は全体の**41.3%**でした。効果は疾患によって差があり、**外側上顆炎や足底腱膜炎、アキレス腱症で特に有効**でした。反面、肩こり、腰痛、肩関節周囲炎、内側上顆炎にはあまり痛みの改善は認められませんでした。

治療の経過



SW治療には理学療法士による運動器リハビリを併用しています。さらに薬や注射も組み合わせた治療で**症状が軽快した方は50%を超えており**、症状の軽快のない方は**25%程度にとどまっています**。特に痛みの軽減効果の低い**肩関節周囲炎でも関節の動きが改善し、24人中22人は最終的には治療効果を認めました**。

### ■ SW治療の実際

運動器リハビリと併用して**SWを3回（週1回）**で実施し、3回終了後にSWを休み、リハビリのみ実施して効果を確認します。この4週間を1クールにして全部で**3クール、9回12週の治療**を実施します。（疾患・症状の経過により、適宜変更されます。）

★ SW治療の予約並びに変更は電話（045-810-5441）で可能です。

### ■ 副作用

SWに大きな副作用はありませんが、**治療中・治療後の疼痛・一時的な治療部位の腫れ、点状出血、感覚異常、知覚低下がおきる**ことがあります。